3.3 復興支援特別公演「きはつの音楽云」 「いっしこ 日本の 日本の

Special Concert in Iwaki Monday, 3rd March, 6:30 P.M. / Alios Iwaki Performing Arts Center

指揮 小林研一郎 7~~

Conductor KEN-ICHIRO KOBAYASHI

ピアノ 小林亜矢乃 10~-ッ

Piano AYANO KOBAYASHI

ヴァイオリン 日下紗矢子 10ページ Violin SAYAKO KUSAKA

ゲスト 中澤宗幸 (津波ヴァイオリン製作者) 10ページ

Guest MUNEYUKI NAKAZAWA

コンサートマスター 日下紗矢子 Concertmaster SAYAKO KUSAKA

司会 野尻英恵(福島中央テレビアナウンサー)

Presenter HANAE NOJIRI

グリンカ 歌劇〈ルスランとリュドミラ〉序曲 [約5分]

GLINKA / "Ruslan and Lyudmila" Overture

チャイコフスキー ピアノ協奏曲 第1番 変ロ短調作品23 [約32分] 16ページ

TCHAIKOVSKY / Piano Concerto No. 1 in B flat minor, op. 23

- I . Allegro non troppo e molto maestoso
- II . Andantino semplice
- III. Allegro con fuoco

「休憩 Intermission

スメタナ 交響詩〈モルダウ〉 [約12分]

16ページ

15ページ

SMETANA / Die Moldau

マスネ タイスの瞑想曲 [約5分]

17ページ

MASSENET / Thaïs – Méditation

エルガー 愛のあいさつ [約4分]

17ページ

ELGAR / Salut d'amour

ラヴェル ボレロ [約13分]

17ページ

RAVEL / Boléro

[主催] 読売新聞社、日本テレビ放送網、読売テレビ、福島民友新聞社、福島中央テレビ、読売日本交響楽団

[共催] いわき芸術文化交流館アリオス

[後援] 福島県、福島県教育委員会

[協賛] 日産自動車株式会社

3.7 第8回 読響カレッジ (全) 文京シビックホール / 20時開演 (19時30分から奥田佳道氏による解説)

Friday, 7th March, 8:00 P.M. (Pre-concert talks from 7:30 P.M.) / Bunkyo Civic Hall

指揮 大友直人

Conductor NAOTO OTOMO

ヴァイオリン 松田理奈 Violin LINA MATSUDA

コンサートマスター 長原幸太(ゲスト) Guest Concertmaster KOTA NAGAHARA

《オーケストラ芸術の粋 ラヴェルのボレロ》

ラヴェル〈マ・メール・ロワ〉組曲

RAVEL / "Ma mère l'oye" Suite

ラヴェル ツィガーヌ

RAVEL / Tzigane

ラヴェル 亡き王女のためのパヴァーヌ

RAVEL / Pavane pour une infante défunte

ラヴェル ボレロ

RAVEL / Boléro

※この公演の詳細については「《読響カレッジ》2013年度〈下期〉 講座Textbook (別点)をご覧ください。

[主催] 読売新聞社、日本テレビ放送網、読売テレビ、読売日本交響楽団

[共催] 文京シビックホール (公益財団法人 文京アカデミー)

The 535th Subscription Concert Wednesday, 12th March, 7:00 P.M. / Suntory Hall

指揮 下野竜也 8ページ

Conductor TATSUYA SHIMONO

ソプラノ 中嶋彰子 11ページ Soprano AKIKO NAKAJIMA

メゾ・ソプラノ 藤村実穂子 11ページ Mezzo-Soprano MIHOKO FUJIMURA

テノール 吉田浩之 12ページ Tenor HIROYUKI YOSHIDA

バス 妻屋秀和 12ページ Bass HIDEKAZU TSUMAYA

合唱 国立音楽大学合唱団 13ページ Chorus KUNITACHI COLLEGE OF MUSIC CHORUS

合唱指揮 田中信昭、永井宏 13ページ Chorusmaster NOBUAKI TANAKA, HIROSHI NAGAI

コンサートマスター 長原幸太 (ゲスト)
Guest Concertmaster KOTA NAGAHARA

ドヴォルザーク レクイエム 作品89 [約90分]

18ページ

DVOŘÁK / Requiem op. 89

※当公演には休憩がございません。あらかじめご了承ください。

*No intermission

「主催」読売新聞社、日本テレビ放送網、読売テレビ、読売日本交響楽団

[協賛] NTTコミュニケーションズ株式会社

[助成] ※文化庁文化芸術振興費補助金 (トップレベルの舞台芸術創造事業)

[協力] アフラック (アメリカンファミリー生命保険会社)

※当公演では日本テレビ「読響シンフォニックライブ」の収録が行われます。

3.18 第569回サントリーホール名曲シリーズ (火) サントリーホール / 19時開演

The 569th Suntory Hall Popular Series Tuesday, 18th March, 7:00 P.M. / Suntory Hall

指揮 下野竜也 8~- ジ

Conductor TATSUYA SHIMONO

ピアノ 野田清隆 14ページ

Piano KIYOTAKA NODA

コンサートマスター ダニエル・ゲーデ Concertmaster DANIEL GAEDE

ラロ 歌劇〈イスの王〉序曲 [約6分]

24_{ページ}

LALO / "Le Roi d'Ys" Overture

矢代秋雄 ピアノ協奏曲 [約27分]

25 - 3

YASHIRO / Piano Concerto

- I . Allegro animato
- II . Adagio misterioso
- III. Allegro Andante Vivace molto capriccioso

[休憩 Intermission]

フランク 交響曲 ニ短調 [約38分]

26<-9

FRANCK / Symphony in D minor

- I . Lento Allegro non troppo
- II. Allegretto
- III. Allegro non troppo

[主催] 読売新聞社、日本テレビ放送網、読売テレビ、読売日本交響楽団 [助成] 衆文化庁文化芸術振興費補助金 (トップレベルの舞台芸術創造事業)

3 22 第164回 東京芸術劇場コンサートホール/14時開演

The 164th Tokyo Metropolitan Theatre Matinée Series Saturday, 22nd March, 2:00 P.M. / Tokyo Metropolitan Theatre

3 23 第70回 みなどからい ホール / 14時開演 第70回みなとみらいホリデー名曲シリーズ

The 70th Yokohama Minato Mirai Holiday Popular Series

指揮 クリスチャン・ヤルヴィ 9ヘーッ Conductor KRISTJAN JÄRVI

ヴァイオリン パク・ヘユン 14ページ

Violin HYFYOON PARK

コンサートマスター ダニエル・ゲーデ Concertmaster DANIEL GAEDE

プリッツカー 〈クラウド アトラス〉 交響曲から第4.5.6楽章

~ティクヴァ、クリメック、ハイルによる映画音楽を基に~ [約18分] 27 ~~ ジ

PRITSKER / 3 movements from Cloud Atlas Symphony:

Music based on music from the film 'Cloud Atlas' by Tykwer, Klimek & Heil

- IV. GROOVE
- V. MELODY
- VI MARCH

コルンゴルト ヴァイオリン協奏曲 ニ長調作品35 [約24分]

KORNGOLD / Violin Concerto in D major, op. 35

- I. Moderato nobile
 - II. Romanze
 - III. Allegro assai vivace

「休憩 Intermission

ブラームス(シェーンベルク編) ピアノ四重奏曲 第1番

ト短調作品25(管弦楽版) [約40分]

29_{ペ-ジ}

BRAHMS (arr. Schönberg) / Piano Quartet No. 1 in G minor, op. 25 (orchestra version)

- I . Allegro
- II. Intermezzo: Allegro ma non troppo
- III. Andante con moto
- IV. Rondo alla Zingarese: Presto

[主催] 読売新聞社、日本テレビ放送網、読売テレビ、読売日本交響楽団

[助成] ※文化庁文化芸術振興費補助金 (トップレベルの舞台芸術創造事業)

[協力] 横浜みなとみらいホール (3/23)

[事業提携]東京芸術劇場(3/22)

いわきが生んだマエストロ 被災地への思いを込めて

小林研一郎

Ken-ichiro Kobavashi

Maestro of the month



◇3月3日「きぼうの音楽会」in いわき

"コバケン"の愛称で親しまれている世界的指揮者。2011年8月より、読響の特 別客演指揮者を務めている。福島県いわき市出身。

東京藝術大学作曲科および指揮科を卒業。1974年、第1回ブダペスト国際指揮 者コンクール第1位、特別賞を受賞。ハンガリー国立響の音楽総監督をはじめ、チ ェコ・フィル常任客演指揮者、日本フィル音楽監督など国内外の数々のオーケスト ラのポジションを歴任。ハンガリー政府よりリスト記念勲章、ハンガリー文化勲章、 民間人最高位の "星付中十字勲章" を授与された。10年には、ハンガリー文化大使 に就任。11年、文化庁長官表彰受賞。13年、旭日中綬章を受章。

現在、ハンガリー国立フィル、日本フィルおよび名古屋フィルの桂冠指揮者、九 州響の首席客演指揮者、東京藝術大学、東京音楽大学およびリスト音楽院(ハンガ リー) 名誉教授。12年7月からは、東京文化会館の音楽監督も務めている。

02年5月の「プラハの春音楽祭」オープニングコンサートの指揮者に、東洋人と して初めて起用され、大統領臨席のもとスメタナ作曲〈我が祖国〉をチェコ・フィル と演奏し、スメタナホール満場の聴衆から長いスタンディング・オベーションを受け た。

その後、チェコ・フィル、マリンスキー・ヤング・フィル、ハンガリー国立フィル、 アーネム・フィルの日本公演や、日本フィルのヨーロッパ公演を指揮し、好評を博 した。多くのCD、DVDをリリースしているが、特に公演からわずか1か月という異 例の早さで昨年5月にCD化された読響との〈我が祖国〉(ライヴ録音)は、本人を して「これまでの人生で最高」と言わしめるほどの充実した演奏で、多方面で絶賛 を博している。

「あの日のことを忘れない」 音楽の力を信じ、突き進む俊英

下野竜也

Tatsuva Shimono



◇ 3 月12日 定期演奏会 ◇3月18日 サントリーホール名曲シリーズ

2006年11月から13年3月まで読響の初代正指揮者を務め、現在は首席客演指 揮者。読響とともに交響曲全曲を取り上げたことで注目されたドヴォルザークのス ペシャリストであり(日本人指揮者初の快挙)、邦人作品への造詣も深い。

1969 年鹿児島生まれ。鹿児島大学教育学部音楽科、桐朋学園大学音楽学部附 属指揮教室、イタリア・シエナのキジアーナ音楽院で学んだ後、大阪フィルの指揮 研究員となり朝比奈隆氏ら巨匠たちの薫陶を受けた。文化庁派遣芸術家在外研修 員としてウィーン国立演劇音楽大学に留学中、2000年の東京国際音楽コンクールと 01年のブザンソン国際指揮者コンクールで優勝を飾った。

国内の主要オーケストラはもとより、チェコ・フィル、シュトゥットガルト放送響、 ローマ・サンタチェチーリア管、ミラノ・ヴェルディ響、ストラスブール・フィル、ウ ィーン室内管、南西ドイツ・フィル、カンヌ PACA 管、プラハ・フィルハーモニア、シ リコンバレー響などと共演し、国際的な活躍を展開している。また、サイトウ・キネ ン・フェスティバル松本、アフィニス音楽祭、霧島国際音楽祭、宮崎国際音楽祭、 別府アルゲリッチ音楽祭など、各地の音楽祭にも招かれている。学校コンサート、 親子コンサートなどの教育プログラム、ジュニアオーケストラの指揮、指揮マスター クラスなど、後進の指導・育成にも熱意をもって取り組んでおり、その活動は多岐 にわたる。

07年4月より上野学園大学教授。11年1月、広島ウィンドオーケストラの音楽監 督に就任。本年4月には、京都市響の常任客演指揮者に就任する。出光音楽賞、 渡邉曉雄音楽基金音楽賞、新日鉄音楽賞・フレッシュアーティスト賞、齋藤秀雄メ モリアル基金賞、芸術選奨文部科学大臣賞など、受賞も数多い。

躍動感あふれる指揮姿 新鋭K.ヤルヴィ、読響初登場

クリスチャン・ ヤルヴィ

Kristjan Järvi

Maestro

of the month

今月のマエス



◇3月22日東京芸術劇場マチネーシリーズ ◇ 3 月23日 みなとみらいホリデー名曲シリーズ

フレッシュなアイデアとカリスマ性、卓越したテクニックで、クラシック音楽の境 界線を押し広げる、個性あふれる新鋭指揮者。伝統的なレパートリーに独自の選曲 を積極的に取り入れる先進的な姿勢が常に大きな注目を集めている。ニューヨー ク・タイムス紙では「バーンスタインの再来のごとき、指揮台での動的説得力」と絶 替された。

1972年、エストニアのタリン牛まれ。父は高名な指揮者ネーメ・ヤルヴィ、兄も 国際的に活躍する指揮者パーヴォ・ヤルヴィという音楽一家に育ち、幼少時にニュ ーヨークへ移住。マンハッタン音楽学校でピアノを修め、後にミシガン大学で指揮 を学んだ。

ロサンゼルス・フィルのアシスタント・コンダクターとして指揮者のキャリアを歩 み始め、バーゼル室内管のアーティスティック・アドヴァイザー、ニューヨークのア ブソリュート・アンサンブルの創立者兼音楽監督、バルト海ユース・フィルの創立指 揮者兼音楽監督を歴任。2012年にはドイツ最古の放送オーケストラ、MDRライプ ツィヒ放送響の音楽監督に就任し、「伝統を誇るオーケストラに新たな息吹を吹き 込んでいる」と注目を集めている。

客演指揮者としてはこれまでにロンドン響、シュターツカペレ・ドレスデン、バイ エルン放送響、ハンブルクNDR(北ドイツ放送)響、フランス国立管、パリ管、ロー マ・サンタチェチーリア管、ナショナル響 (ワシントン DC)、ミネソタ管、ベルリン・ フィルなど、世界の一流オーケストラに招かれている。また、レコーディングにも積 極的で、これまでに30枚を超えるアルバムをリリースしている。

読響とは今回が初共演。

いわき出身の父・研一郎とともに 被災地復興への願いを込めて

小林亜矢乃

Piano Ayano Kobayashi

東京生まれ。桐朋学園「子供のための音楽教室」を経て東京音楽大学ピアノ演奏家コース、ケルン音楽院をそれぞれ首席で卒業。第64回日本音楽コンクール・ピアノ部門入選、イタリアAMAカラブリア国際ピアノ・



©Hiromi Uchid

コンクール第2位、エンニォ・ポリーノ国際ピアノ・コンクールで第3位など、国内外の多数の国際コンクールで上位に入賞している。ハンガリー国立響とのデビュー後、ネザーランド・フィル、ハンガリー国立フィル、チェコ・フィル、関西フィル、大阪フィル、名古屋フィル、東京ニューシティ管、日本フィルなどと共演を重ねているほか、ドイツでのリサイタルや、スペインのセヴィリア・スプリングフェスティバルに招かれるなど、国際的に活躍している。読響とは2012年4月に初共演、今回が2回目の共演となる。

◇3月3日「きぼうの音楽会」in いわき

読響が世界に誇る コンサートマスター

日下紗矢子

Violin Sayako Kusaka



©Kiyoaki Sasahara

兵庫県出身。東京藝術大学、米・南メソディスト大学大学院、フライブルク音楽大学を経て08年、ベルリン・コンツェルトハウス管の第1コンサートマスターに就任。13年4月からは読響のコンサートマスターも兼務し、日独両国でオーケストラ、ソロ、室内楽など多彩な活動を展開している。日本音楽コンクール第1位、パガニーニ国際コンクール第2位。ベルリン在住。

巨匠たちからの信頼も厚い ヴァイオリン製作者

中澤宗幸

Guest Muneyuki Nakazawa



ヴァイオリンドクター。東日本大震災で被災した家屋や流木から津波ヴァイオリンを製作した。1940年、兵庫県出身。イギリスをはじめヨーロッパ各地でヴァイオリンの作り方や修復の技術を学ぶ。80年、東京に工房をひらく。現在、東京、信州上田、イタリアのクレモナに工房を持ち、名器の修復や鑑定のほか、世界中のオーケストラや演奏家の楽器の調整も手がけている。

◇3月3日「きぼうの音楽会」in いわき

ウィーンを魅了した舞台の花世界的プリマ・ドンナ

中嶋彰子

tist of the month

今月の

Soprano Akiko Nakajima

15歳で渡豪し、シドニーで音楽教育を受ける。1990年、全豪オペラ・コンクール優勝。シドニーとメルボルンの両歌劇場と契約し、〈皇帝ティートの慈悲〉でデビュー。92年、ヨーロッパ国際放送連合年間最優秀賞受



賞。99年、ダルムシュタットで〈ルチア〉のタイトルロールを演じ、「オペルンヴェルト」誌の年間最優秀新人賞を受賞。同年からウィーン・フォルクスオーパーの専属歌手となり、劇場のトップスターとして活躍した。CDは歌曲集「ラ・パストレッラ」(2005年度ドイツ批評家大賞ノミネート)、オペラ・アリア集「女の肖像」、世界初録音を含む歌曲集「愛の喜び」をリリース。最新盤は自身初のオペレッタ・アリア集となる「ウィーン、わが夢の街」。03年、出光音楽賞を受賞。

◇3月12日 定期演奏会

メータ、ヤンソンス、ティーレマンら 世界的指揮者から絶賛されるメゾ

藤村実穂子

Mezzo-Soprano Mihoko Fujimura

東京藝術大学大学院修了後、ミュンヘン音楽大学大学院に留学。在院中にワーグナー・コンクール (バイロイト) で事実上の優勝、マリア・カナルス・コンクール 優勝など数々の国際コンクールに入賞後、オーストリア



©Edd Roya

第2のオペラハウス、グラーツ歌劇場の専属歌手となった。2002年にはバイロイト音楽祭にフリッカ役でデビューし(主役級ソリストとしては日本人初)、世界的な注目を集めた。以後、ミラノ・スカラ座、ウィーン国立歌劇場、ドレスデン国立歌劇場、テアトロ・レアル(マドリード)など世界有数の歌劇場への出演、また一流楽団との共演を重ねている。

02年出光音楽賞、03年第54回芸術選奨文部科学大臣新人賞、07年第37回エクソンモービル音楽賞洋楽部門奨励賞をそれぞれ受賞。

◇ 3 月12日 定期演奏会

瑞々しく伸びやかな美しい声 豊かな表現力で魅了するテノール

吉田浩之

Tenor Hiroyuki Yoshida

福井県敦賀市出身。国立音楽大学声楽科卒業、東京藝術大学大学院オペラ科修了、二期会オペラスタジオを優秀賞で修了。1990年、モーツァルト没後200年記念国際モーツァルト声楽コンコルソ本選入賞。その際、



©Eiji Shinohara

ウィーン国立歌劇場でウィーン・フィルと共演し国際的な活動の第一歩を踏み出した。翌91年、文化庁派遣芸術家在外研修員としてローマに留学、イタリア各地で数多くのコンサートに出演した。国内では新国立劇場、二期会などで数多くのオペラに出演し、〈第九〉をはじめとするコンサートでのソリストとしても幅広く活躍している。読響とは〈第九〉はもちろんのこと、リストの〈ファウスト交響曲〉やモーツァルトの〈魔笛〉(日生劇場公演)などで多数共演している。

97年、ジロー・オペラ賞新人賞受賞。東京藝術大学音楽学部声楽科教授。

◇ 3 月12日 定期演奏会

日本人離れした堂々たる風格 国内外で引く手数多の本格派バス

妻屋秀和

Hidekazu Tsumaya

大阪府出身。東京藝術大学を卒業後、同大学院オペラ科修了。1989年イタリア声楽コンコルソ・ミラノ部門金賞、91年日本音楽コンクール第3位、同年日本声楽コンクール第2位などを受賞。92年から安田生命クオリ



ティーオブライフ文化財団第1回奨学生としてイタリア・ミラノに留学。94年~2001年、ドイツ・ライプツィヒ歌劇場専属契約歌手、02~11年、ワイマールのドイツ国民劇場専属歌手として主にドイツで活躍、ブレゲンツ湖上音楽祭、クラーゲンフルト市立歌劇場、ライン・ドイツ・オペラ、ミュンスター市立劇場、ベルリン州立歌劇場などにも客演した。国内では新国立劇場や藤原歌劇団の数多くの舞台で活躍している。96年、ジロー・オペラ賞受賞。

藤原歌劇団団員。ライプツィヒ在住。

◇3月12日定期演奏会

長い歴史と豊富な演奏経験を有し 伝統と格式を誇る音大合唱団

国立音楽大学合唱団

tist of the month

今月の

Kunitachi College of Music Chorus

大学創立の翌年にあたる1927年に新交響楽団(現N響)と合唱団が初共演、以来、現在に至るまで、年末のN響第九演奏会に出演し続けているほか、主要オーケストラと数多く共演し、高い評価を得ている。

アンサンブル教育を重視する観点から、声楽専修生たちは専門性を高めた合唱 指導を受けている。例年秋に開催される定期演奏会は、古今の合唱作品を意欲的 に取り上げ、現役で活躍するソリストとの共演も含まれる充実した内容で、関係者 はもとより地域社会にも親しまれている。

読響とは2004年アルブレヒト指揮〈グラゴール・ミサ〉他で初共演、その後06年ホーネック指揮〈レクイエム〉(モーツァルト)、08年同じくホーネック指揮〈復活〉、09年カリニャーニ指揮〈惑星〉でも大きな成功をおさめ、驚い信頼関係を築き上げている。

◇3月12日 定期演奏会

我が国が誇る合唱界の至宝

田中信昭

Chorusmaster Nobuaki Tanaka



1956年、東京藝術大学を卒業と同時

に東京混声合唱団を創立、常任指揮者

に就任。97年には桂冠指揮者の称号を

贈られ、2007年、音楽監督・理事長に

就任。今日まで、作曲家と協力して新

しい日本の合唱音楽の創造に力を尽く

してきた。08年から国立音楽大学招聘

教授。86年毎日芸術賞、06年朝日現

代音楽賞、10年エクソンモービル音楽

賞を受賞。00年勲四等瑞宝章受章。

永井 宏

ピアニストから 合唱指揮者へ

Chorusmaster Hiroshi Nagai



1953年横浜市生まれ。国立音楽大学卒業・同大学院修了(ピアノ専攻)。ピアニストとしてソロ、室内楽、伴奏など多方面にわたり全国各地のコンサート、放送等で活躍した後、長年にわたるコレペティトゥア経験をもとに指揮者としても多彩な活動を展開。なかでも声楽付き管弦楽曲の分野では他の追随を許さない成果をあげている。国立音楽大学准教授。

◇ 3 月12日 定期演奏会

下野竜也が絶賛する 気鋭のピアニスト

野田清隆

Piano Kiyotaka Noda

横浜市出身。東京藝術大学大学院博士後期課程修 了。1995年、日本音楽コンクール第1位および各賞を 受賞。室内楽の演奏はもとより、近年は下野竜也、広 上淳一、尾高忠明らの指名を受け、大阪響、東京シテ



©Naoya Yamaguchi

ィ・フィル、日本フィルなどとシェーンベルクやR.シュトラウス、ブラームスの協奏曲などを共演。また、尾高惇忠や近藤譲といった作曲家の新作初演、ブーレーズ〈シュル・アンシーズ〉日本初演に携わったほか、「20世紀音楽で綴る《夜》」コンサートを主宰するなど、現代音楽の分野でも活動している。2013年5月にはH.バートウィスル〈ハリソンの時計〉の演奏を作曲者から絶賛された。東京藝術大学ピアノ科および室内楽科講師を経て、現在は東京学芸大学准教授、ならびに東京音楽大学指揮科特別アドヴァイザー。東京クライス・アンサンブル、トリオ・エドアルテのメンバー。

◇3月18日 サントリーホール名曲シリーズ

ミュンヘン国際コンクールの覇者 期待の若手ヴァイオリニスト

パク・ヘユン

Violin Hyeyoon Park

韓国・ソウル生まれ。4歳からヴァイオリンを始め、その2年後から韓国芸術総合学校のプレ・カレッジ、2003年からシンシナティ大学音楽院のプレ・カレッジ、06年からベルリンのハンス・アイスラー音楽大学で学



Giorgia Bertazzi

んだ。10年にはクロンベルク・アカデミーでクリスティアン・テツラフに師事。07年のルイ・シュポーア国際コンクール優勝を経て、09年のミュンヘン国際音楽コンクールで史上最年少優勝を勝ち取り、一躍世界中の注目を集めた。以後、バイエルン放送響、ベルリン・ドイツ響、ハンブルクNDR(北ドイツ放送)響、リヴァプール・フィル、マリインスキー劇場管、リール国立管など、世界中のオーケストラとの共演を重ねている。使用楽器は、ドイツ音楽財団から貸与されている1781年製ロレンツォ・ストリオーニ。

◇3月22日 東京芸術劇場マチネーシリーズ ◇3月23日 みなとみらいホリデー名曲シリーズ

PROGRAMOTES

プログラムノーツ

その情熱的な指揮ぶりから「炎のマエストロ」と呼ばれ、「コバケン」の愛称でも親しまれる小林研一郎は、いわき市小名浜の出身。「きぼうの音楽会」の指揮者として、このマエストロ以上にふさわしい人はいない。長女でピアニストとして活躍する小林亜矢乃との共演にも期待が高まる。また、コンサートマスターの日下紗矢子は、被災地の流木を用いて作られたヴァイオリンを用いる。この「津波ヴァイオリン」の製作者、中澤宗幸氏を招き、楽器製作に込めた思いが語られる。

プログラムには広く親しまれる名曲中の名曲が並んだ。大作曲家たちの創意と霊感が、精彩に富む美しいひとときをもたらしてくれることだろう。

飯尾洋一

(いいおよういち・音楽ライター

3.3 復興支援特別公演「きぼうの音楽会」in いわき 〈月〉いわき芸術文化交流館アリオス 大ホール/18時半開演

グリンカ

歌劇〈ルスランとリュドミラ〉序曲

作曲:1837~42年(歌劇)/初演:1842年、ペテルブルク/演奏時間: 約5分

小気味よいアンサンブルの 愉悦にあふれた快活な序曲

ロシア国民音楽の礎を築いた作曲 家グリンカの代表作。オペラ〈皇帝 にささげた命〉によって大成功を収 めたグリンカが、続くオペラの題材 として選んだのが「ルスランとリュ ドミラ」である。当初、グリンカは 原作者のプーシキンに台本を書いて もらうことを望んでいたが、1837 年に決闘で受けた傷がもとでプーシ キンが死去したため実現せず、詩人 ヴァレリアン・シルコフらが台本を 書いた。

物語の舞台は古代ロシアのキエフ 公国。悪魔に連れ去られた大公の娘 リュドミラ姫を、騎士ルスランが救 い出して、めでたく二人は結ばれる といった筋書きを持つ。前作の成功 もあり作品は完成後ただちに宮廷劇 場に受け入れられ、またロシアを訪 れたリストも作品に関心を寄せた が、期待に反して初演は不評に終わ ってしまう。しかし上演を重ねるご とに次第に評価を高めた。

現在ではもっぱら序曲が演奏会用 の小品として人気を呼んでいる。快速なテンポによる輝かしい総奏で開始され、はつらつとした活気にあふれる楽想が、華やかなコーダまで一気呵成に駆け抜ける。

楽器編成/フルート 2、オーボエ 2、クラリネット 2、ファゴット 2、コントラファゴット、ホルン 4、トランペット 2、トロンボーン 3、ティンパニ、弦五部

チャイコフスキー

ピアノ協奏曲 第1番 変ロ短調作品23

作曲:1874~75年、1879および88年改訂/初演:1875年、ボストン/演奏時間:約32分

版を完成させ、ルビンシテインに意

見を求めたところ、「ありきたりで

陳腐であり、こんな作品は演奏不可

能しとまで酷評されてしまう。チャ

イコフスキーはルビンシテインの求

めた書き直しを断り、ドイツの名ピ

華麗で技巧的な独奏ピアノと 雄大な管弦楽が対峙する

曲は全3楽章より構成される。第 1楽章冒頭の雄大豪壮な開始部はあまりに有名だ。抒情的な第2楽章ではフルートのソロが印象的。第3楽章では独奏ピアノの名技性が盛大に発揮され、壮麗なフィナーレを築きあげる。

楽器編成/フルート 2、オーボエ 2、クラリネット 2、ファゴット 2、ホルン 4、トランペット 2、トロンボーン 3、ティンパニ、弦五部、独奏ピアノ

スメタナ **交響詩〈モルダウ〉**

作曲:1874年/初演:1875年、プラハ/演奏時間:約12分

どんな大河にも、その源がある。 チェコを代表する作曲家スメタナ は、祖国のモルダウ川 (ヴルタヴァ 川) が源流から川幅を広げながら大 河となってプラハの街に流れ込む情 景を、オーケストラによって表現し た。曲の冒頭、フルートとクラリネ ットの掛けあいは、モルダウ川の二 つの水源が合流する様子を描く。続 いて弦楽合奏で愁いを帯びたモルダ

小さな源流がやがて雄大な大河 となって流れる情景を描く

ウの主題が登場する。かすかな水流 がどんどんと大きくなり、やがて大 河として流れゆく情景が目に浮かぶ かのよう。

どこか懐かしさを感じさせるような流麗なメロディは、日本語歌詞を添えた合唱曲としても親しまれている。また、ポピュラー音楽の分野でのカバー例も数多い。

楽器編成/フルート 2、ピッコロ、オーボエ 2、クラリネット 2、ファゴット 2、ホルン 4、トランペット 2、トロンボーン 3、チューバ、ティンパニ、打楽器(大太鼓、シンバル、トライアングル)、ハープ、弦五部

マスネ

タイスの瞑想曲

作曲:1892~93年/初演:1894年、パリ(歌劇〈タイス〉) /演奏時間:約5分

本来はオペラ〈タイス〉の第2幕 の間奏曲として書かれた作品だが、 その甘美な曲想が人気を博したた め、単独で〈タイスの瞑想曲〉の名 で演奏されることが多い。オペラの

心にしみるヴァイオリン独奏の 甘美でのびやかなメロディ

筋立ては、古代エジプトを舞台に遊 女タイスと若く敬虔な修道僧が信仰 と愛欲の間で引き裂かれるというも の。ヴァイオリン独奏がのびやかで 清澄なメロディを奏でる。

楽器編成/フルート 2、オーボエ、イングリッシュ・ホルン、クラリネット 2、バスクラリネット、ファゴット 2、コントラファゴット、ホルン 4、トランペット 2、トロンボーン 2、ティンパニ、ハープ、弦五部、独奏ヴァイオリン

エルガー **愛のあいさつ**

作曲:1888年/演奏時間:約4分

若き日の作曲家エルガーと アリス夫人の愛の証となった小品

イギリスを代表する作曲家エルガーによる優美で清楚な小品。当時32歳のエルガーが、ピアノの生徒だった8歳年上のアリスにこの作品を贈り、二人は家族の反対を押し切って

結婚した。アリスはまだ大きな成功 を収めていなかったエルガーの才能 を信じて、将来の大家の心の支えと なった。自筆楽譜にはアリスの献身 に対する感謝の念が綴られている。

楽器編成/フルート、オーボエ 2、クラリネット 2、ファゴット 2、ホルン 2、弦五部

ラヴェル **ボレロ**

作曲: 1928年/初演: 1928年、パリ/演奏時間: 約13分

ラヴェルの名を国際的に知らしめることになった傑作。ボレロとはスペイン舞曲の一種を指す。作品の冒頭から小太鼓が延々と同じボレロのリズムを刻み続け、同じメロディが楽器の種類や組み合わせを変えながら繰り返される。最初はフルートのソロで、次にクラリネットで、そし

ラヴェル一流の機知が 生み出した「反復の美学」

てファゴット、エスクラリネット、オーボエ・ダモーレ、フルートとトランペット……。後半にはトロンボーンのソロも。同じメロディとリズムが反復される一方で、音色はきわめて多彩。ゆるやかに大きなクレッシェンドを描いて、最後は滝が流れ落ちるように曲を閉じる。

楽器編成/フルート 2(ピッコロ持替)、ピッコロ、オーボエ 2(オーボエ・ダモーレ持替)、イングリッシュ・ホルン、クラリネット、エスクラリネット、バスクラリネット、ファゴット 2、コントラファゴット、ソプラノサクソフォン、テナーサクソフォン、ホルン 4、トランペット 3、ピッコロトランペット、トロンボーン 3、チューバ、ティンパニ、打楽器(大太鼓、シンバル、小太鼓 2、タムタム)、ハープ、チェレスタ、弦五部

PROGRAMOTES

プログラムノーツ

すでに読響と全交響曲を演奏している下野竜也が、今回取り上げるのは、第8番の翌年に書かれた〈レクイエム〉だ。ドヴォルザークの音楽のすみずみまで知り尽くした下野のタクトのもと、4人のすばらしい独唱者と国立音楽大学合唱団とともに、充実期にあった作曲家が綴り上げたスコアが、感動的に鳴り響くことだろう。

満津岡信育

(まつおかのぶやす・音楽評論家)

ドヴォルザーク **レクイエム 作品89**

作曲:1890年1月~10月/初演:1891年10月9日、バーミンガム /演奏時間:約90分

敬虔なクリスチャンであった作曲者が、 神への信頼と祈りとを結実させた大作

敬虔なクリスチャンであったアン トニーン・ドヴォルザーク(1841~ 1904) は、教会からの委嘱という形 ではなしに、いくつもの宗教音楽を 残している。愛児たちの死を悼んで 書いた〈スターバト・マーテル〉 (1876、77年作) のあと、チェコ民 族のキリスト教への帰依をテーマに したオラトリオ〈聖ルドミラ〉(1885、 86年作)でも成功を収めた作曲者 が、〈レクイエム〉に着手したのは、 1890年のこと。この年の2月から4 月にかけて、モスクワ、ペテルブル ク、イギリスを訪問し、秋にはプラ ハ音楽院の教授への就任を受諾する など、気力と体力が充実していた時 期の作である。カトリック教会の典 礼文に基づく〈レクイエム〉であり

ながら、特定の人物の死を悼んだも のではなく、イギリスのバーミンガ ム音楽祭のために作曲された楽曲で ある。初演はドヴォルザーク自身の 指揮によって行われた。

前年には交響曲第8番を作曲するなど、作曲家としての地位を揺るぎないものとして名声を博したドヴォルザークが、その時期に死者を悼む〈レクイエム〉を作曲したのは、つねに神とともに歩んできた彼の死生観によるものであり、そこには、神への感謝、素朴な楽天主義、揺らぐことのない信仰心が盛り込まれている。楽曲は、大きく二つの部分に分けられ、13曲で構成されている。典礼文に則りながらも、独自の区切り方を交えており、オーケストラも

ングリッシュ・ホルン*、バスクラリ ネット、コントラファゴットを含む 3管編成になっている。第1部では、 哀しみ、悔い改め、祈りといった神 に対する深い感情が叶露され、第2 部では、明るく穏やかな曲調に転じ て、魂の平安を見出し、揺らぐこと のない信仰心が表出されていく。ド ヴォルザークの音楽はオラトリオが 好まれたイギリスで人気を博してい たが、この作品はヘンデル風の壮麗 な響きだけではなく、聴き手の心に しみこむ叙情性と旋律の美しさが際 立ったレクイエムになっているのが 特徴であり、儀式めいた荘厳さが排 されている点が印象的である。ドヴ ォルザークの作品目録の著者であ るブルグハウザーが、「彼の全作品 を通じて哲学的にもっとも深い作 品 | と評していることを付記してお きたい。

第1部の第1曲「永遠の安息を」では、曲頭で弱音器を付けたチェロとヴァイオリンが、最弱音でへ・変*ト・ホ・への四つの音から成る動機を提示する。この悲しみを象徴する半音階的な動機が全曲にわたって活用され、音楽的な統一感をもたらしている。第3曲「怒りの日」は、グレゴリオ聖歌の旋律ではなく、創作した行進曲風の旋律を用いている。管弦楽が執拗に繰り返す動機は、第

1部の終盤にも登場する。また、トランペットがモットー動機を奏してスタートする第4曲「喇叭が吹き鳴らす、耳慣れない響きを」の後半は、第3曲の音楽が激しさを増して反復される。第1部の最後を飾る第8曲「涙の日」は、合唱のアーメンの歌声で結ばれる。

第2部の第9曲「オッフェルトリ ウム (奉献唱) | 後半で展開されるフ ーガの主題は、15世紀のチェコの 替歌〈楽しく歌おう〉の旋律を自由 に引用したものであり、このフーガ は、第10曲「生贄と讃美の祈りを」 でも繰り返され、神々しい喜びが表 出される。この喜びは、第11曲「サ ンクトゥス (聖なるかな) | にも引き 継がれ、神を賛美する言葉である 「ホザナ (Hosanna) | の歌声で頂点 に達する。第12曲「ピエ・イェズ(慈 悲深きイエス) は、正規の典礼に は含まれない挿入部であり、フルー ト、オーボエ、イングリッシュ・ホ ルンが美しい主題を提示する。第 13曲「アニュス・デイ(神の子羊)| では、第1部の冒頭と同じ音楽が登 場するほか、終盤に至ると深い悲し みが静謐にしみわたるように回帰 し、モットー動機が登場して作品を 感動的に締めくくる。

※「イングリッシュ・ホルン」「変」 ……解説は30ページへ

楽器編成/フルート 2、ピッコロ、オーボエ 2、イングリッシュ・ホルン、クラリネット 2、バスクラリネット、ファゴット 2、コントラファゴット、ホルン 4、トランペット 4、トロンボーン 3、チューバ、ティンパニ、打楽器(タムタム、チューブラーベル)、ハープ、オルガン、弦五部、独唱(ソプラノ、アルト、テノール、バス)、合唱

PROGRAMOTES

プログラムノーツ

意表をつく選曲のようにも思えるが、ルーツをフランスに持つ矢代作品が配置されているのはまことに絶妙なアイディアだ。そのピアノ協奏曲だが、ソリスト、指揮者ともに若手ゆえ、火花を散らす熱演が期待できそうだ。ラロは生き生きとしなやかな、そしてフランクも下野ならではの瑞々しさにあふれた演奏となろう。

平林直哉

(ひらばやしなおや・音楽評論家)

3.18 第569回サントリーホール名曲シリーズ (火) サントリーホール / 19時開演

ラロ

歌劇〈イスの王〉序曲

作曲:1876年/初演:1876年11月14日、パリ (序曲のみ)、1888年5月7日、パリ (歌劇全曲)/演奏時間:約6分

ダイナミックで変化に富んだ、フランスを代表する序曲のひとつ

エドゥアール・ラロ (1823~92) は パリの北リールに生まれた。代表作は 〈スペイン交響曲〉(1874年、内容はヴ ァイオリン協奏曲)、チェロ協奏曲 (1877年) だが、歌劇〈イスの王〉は 舞台作品で成功したいとの思いで書き 始められたものである。題材はブルタ ーニュ地方に伝わる伝説を、台本作家 ブローが再編したもので、あら筋は以 下の通り。イスの王家に姉妹がいた が、姉マルガレードは敵国のカルナッ クと政略結婚させられる。しかし、マ ルガレードの恋人ミリオが生きていた ことを知ると、カルナックとの結婚を 拒否。侮辱されたカルナックはイス国 に宣戦布告するが、あえなく敗北する。 ところが、妹ローゼンがミリオと結婚 することを知った姉マルガレードは

激しく嫉妬、カルナックに水門の秘密を教え、やがて町が水没する。最後はマルガレードが身投げして神の怒りを静め、平和が戻るというもの。

この歌劇は序曲が1876年に初演されているが、歌劇の全曲の初演は10年以上もたった1888年に行われている。初演後は1年に100回以上も上演されるほど人気があったが、最近ではもっぱら序曲のみが取り上げられる。序曲は劇中に使用される旋律をもとに構成されており、まず序奏はアンダンテ・ベン・ソステヌート、やや重苦しい雰囲気で始まる。主部のアレグロは非常に劇的だが、途中に現れるチェロのソロは聴きものである。最後は勝利を高らかに論いながら閉じる。

楽器編成/フルート 2、オーボエ 2、クラリネット 2、ファゴット 4、ホルン 4、コルネット 2、トランペット 2、トロンボーン 3、チューバ、ティンパニ、打楽器(大太鼓、小太鼓、シンバル)、弦五部

矢代秋雄 ピアノ協奏曲

作曲:1964年~67年5月/初演:1967年11月5日(放送)、1967年11月 29日(公開)/演奏時間:約27分

20世紀の響きを凝縮、昇華させた、世界に誇る日本の名作

矢代秋雄 (1929~76) は東京・大 森に生まれた。5歳でピアノを始め、 8歳で作曲を始める。10歳から諸井 三郎に学び、中学時代には橋本國彦 に師事する。1945年、東京音楽学校 (現・東京藝術大学)に入学し、池内 友次郎、伊福部昭に作曲を師事、ク ロイツァーにピアノを学ぶ。矢代に とって大きな転機となったのは 1951年からのフランス滞在だった。 パリ音楽院でブーランジェ、シャラ ン、ギャロン、メシアンといったそ うそうたる顔ぶれの洗礼を受け、作 曲技法にいっそう磨きがかかったの である。1956年に帰国、その後、 弦楽四重奏曲、交響曲、フルートと ピアノのためのソナタ、チェロ協奏 曲などを矢継ぎ早に発表し、大いに 注目を集めた。その他、映画音楽、 劇場音楽等も手がけ、母校で後進の 指導にもあたったが、働き盛りでの 急逝はいまだに惜しまれている。

このピアノ協奏曲は矢代の代表作として、その名声を決定づけたもの。書き始めた当初はなかなか筆が進まなかったが、矢代がピアニスト・中村紘子と出会って状況が一変、

中村を初演者と想定し、みるみる作 品が出来上がったという。曲の編成 はそれなりに大きく、しかもヴィブ ラフォン、ウッドブロック、鈴、チ ューブラーベルなども加わるが、全 体は非常に引き締まった繊細な響き が特徴である。また、ピアノと管弦 楽の対比も巧みであり、曲の随所に カデンツァが挿入されている。さら に、全曲にわたって各楽章の楽想が 共有されるが、これはフランクの交 響曲の循環形式に通ずるものと言え る。曲は以下の三つの楽章よりなる。 **第1楽章** アレグロ・アニマート いきなり独奏ピアノの主題で始ま る。拍子は頻繁に変わるが、これが 独特の妙味を演出する。

第2楽章 アダージョ・ミステリオーソ 冒頭からピアノの「ド」の音が延々と続くが、これが全体を支配する。作曲者によるとこの楽章は「幼時に発熱した際に見た、恐ろしい夢」を描いたものとのこと。

第3楽章 アレグロ~アンダンテ~ ヴィヴァーチェ・モルト・カプリツィ オーソ ダイナミックな終曲。先行す る楽章の素材がちりばめられている。

楽器編成/フルート 2、ピッコロ、オーボエ 2、クラリネット 2(バスクラリネット持替)、ファゴット 2、ホルン 4、トランペット 2、トロンボーン 3、チューバ、ティンパニ、打楽器(シンバル、サスペンデッド・シンバル、タムタム、チューブラーベル、ヴィブラフォン、ウッドブロック、鈴)、弦五部、独奏ピアノ

作曲:1886年~88年/初演:1889年2月17日、パリ/演奏時間:約38分

フランスで生まれた、ドイツ志向の強い傑作交響曲

セザール・フランク (1822~90) はベルギーのリエージュに生まれた。1835年、一家はパリへ移住し、フランクもこの地で亡くなったため音楽史ではフランス音楽の枠組みに入れられている。フランクは15歳の時にパリ音楽院に入学するも、なぜか中退。転機は30歳の時だった。彼は突如オルガンに目覚め、1858年、サン・クロティルド教会のオルガニストに就任し、オルガン作品をいくつも手がけた。

その後、フランクはパリ音楽院のオルガン科の教授に就任する。教会の仕事と教職で生活には困らなかったが、作曲家としては全く無名だった。しかし、晩年になってピアノ五重奏曲(1880年)、交響的変奏曲(1885年)、そして不朽の名作ヴァイオリン・ソナタ(1886年)が誕生、にわかに注目されるようになる。

そのヴァイオリン・ソナタのあと、 交響曲が完成した。しかし、初演の 準備段階で「オルガン科の教授のく せに交響曲を書くなどとは」といっ たやっかみが起こり、オーケストラ のメンバーも決して好意的ではなか ったらしい。初演後、新聞は「陰気 な作品」と評し、友人グノーも「何の才能もない」と語ったが、フランク自身は「思い通りに響いた」と満足した。やがて、この新作交響曲は次第に高い評価を得るようになり、今日にいたっている。

曲想はフランクが私淑していたバッハを始めとするドイツ音楽の影響が強く、崇高で神秘的な雰囲気も漂わせている。曲は三つの楽章よりなるが、基本となる三つの主題が各楽章に形を変えて現れる循環形式を採用し、曲全体の有機的な統一がはかられている。

第1楽章 レント 冒頭いきなりチェロとコントラバスによる主題が奏されるが、これが循環主題として重要な役割を果たす。主部ではベートーヴェン風の闘争劇が展開される。

第2楽章 アレグレット 弦のピッツィカートとハープの序奏のあと、イングリッシュ・ホルンがもの悲しい旋律を奏する。ここはドヴォルザークの〈新世界から〉と並んで、この楽器を最も効果的に用いた例である。中間部はスケルツォ風。

第3楽章 アレグロ・ノン・トロッポ 各主題が回想され、力強く輝かしく 全曲が閉じられる。

楽器編成/フルート 2、オーボエ 2、イングリッシュ・ホルン、クラリネット 2、バスクラリネット、ファゴット 2、ホルン 4、コルネット 2、トランペット 2、トロンボーン 3、チューバ、ティンパニ、ハープ、弦五部

プログラムノーツ

/ 1円 年 じ (かたぎりたくや・音楽ライター)

3.22 第164回 東京芸術劇場マチネーシリーズ (土) 東京芸術劇場コンサートホール/14時開演

3.23 第70回 みなとみらいホリデー名曲シリーズ (日)横浜みなとみらいホール/14時開演

プリッツカー

〈クラウドアトラス〉交響曲から第4,5,6楽章 ~ティクヴァ、クリメック、ハイルによる映画音楽を基に~

初演: 2012年11月11日、クリスチャン・ヤルヴィ指揮 MDR ライプツィヒ放送交響楽団、ドイツ、ハレ(インパルス・フェスティバル)/演奏時間: 約18分

映画音楽から生まれた新しい交響曲

ジーン・プリッツカー (1971~) はロシア出身、現在はニューヨークを拠点に活躍する作曲家、ギタリスト、ラッパー、レコード・プロデューサーである。この〈クラウドアトラス〉交響曲は、同名の映画「クラウドアトラス」(「マトリックス」で知られるウォシャウスキー姉弟、トム・ティクヴァが作った2012年のオムニバス・SF映画)の音楽をベースに、プリッツカーが書いた作品である。プリッツカーは、この映画でティクヴァ、クリメック、ハイルに

よる音楽のオーケストレーションに加えて、追加の音楽を提供している。映画は全6部のオムニバスだが、この作品も全6楽章による交響曲で、そのうちから後半の3楽章が演奏される。この曲はMDRライプツィヒ放送交響楽団のために2012年に書かれたが、その初演を指揮したのがクリスチャン・ヤルヴィだった。ミニマル音楽的な音の積み重ねの中で、スケールの大きなオーケストラの音が波のように広がっていく。

楽器編成/フルート 2、ピッコロ、アルトフルート、オーボエ 2、イングリッシュ・ホルン、クラリネット 2、バスクラリネット、ファゴット 2、コントラファゴット、ホルン 4、トランペット 4、トロンボーン 4、チューバ、ティンパニ、打楽器(大太鼓、サスペンデッド・シンバル、タンブリン、小太鼓、トムトム、グロッケンシュピール、クロタル、タムタム、ハイハット、ゴング、ロート・タム、チューブラーベル)、ハープ、ピアノ、弦五部

ハリウッド時代の映画音楽を源流とする傑作協奏曲

エーリヒ・ヴォルフガング・コル ンゴルト(1897~1957) はモラヴ ィア地方のブリュン (現在はチェコ のブルノ) に生まれた。ユダヤ系で 父親は音楽評論家だった。彼の神童 ぶりは凄い。9歳で書いたカンター タはマーラーに激賞され、14歳の 時には指揮者アルトゥール・ニキシ ュの委嘱によりベルリン・フィルで 〈劇的序曲〉を初演している。10代 の終わりから書き始めたオペラで は、23歳の時に代表作〈死の都〉 (1920年初演)を発表し、ウィーン のある新聞のアンケートではシェー ンベルクと並んで現役最高の作曲 家に選ばれた。

彼の運命が暗転するのは1930年代。ザルツブルク音楽祭で知り合った演出家マックス・ラインハルトの招きでアメリカへ行き、シェイクスピア原作による映画「真夏の夜の夢」(ラインハルトとウィリアム・ディターレの共同監督)のためにメンデルスゾーンの音楽を編曲し、それが好評で、オーストリアとアメリカを往復しながら仕事をするようになる。1938年ナチス・ドイツがオース

トリアを併合し、コルンゴルトはアメリカへの亡命を選ぶ。映画音楽では1936年に「風雲児アドヴァース」でアカデミー賞作曲賞を受賞。本格的なクラシック的発想による音楽を書いたことで、その後の映画音楽の芸術的な発展に貢献した。

1945年にヴァイオリン奏者のフ ーベルマンの提案によって書き始め られたというこのヴァイオリン協奏 曲は、結局ハイフェッツの手で初演 された。ハリウッドの映画音楽のテ ーマなどを使った3楽章形式の作品 として発表され、初演も大成功を収 めた。**第1楽章**ではエロール・フリ ンが主演した映画「砂漠の朝」(1937) 年)から第1主題が採られている。 第2楽章のロマンツェは「風雲児ア ドヴァース | から、第3楽章の第2 主題は「放浪の王子」(1937年)か ら、という具合に、それまでに書い た映画音楽を実に巧みに取り入れな がら、技巧的なヴァイオリン独奏と 立体的なオーケストラを組み合わせ た。コルンゴルトの才能の豊かさを 示す作品として再評価されている。

楽器編成/フルート 2(ピッコロ持替)、オーボエ 2(イングリッシュ・ホルン持替)、クラリネット 2、バスクラリネット、ファゴット 2(コントラファゴット持替)、ホルン 4、トランペット 2、トロンボーン、ティンパニ、打楽器(大太鼓、シンバル、ヴィブラフォン、シロフォン、グロッケンシュピール)、ハープ、チェレスタ、弦五部、独奏ヴァイオリン

ピアノ四重奏曲 第1番 ト短調作品25 (管弦楽版) 作曲: 1855~61年、編曲: 1937年/初演: 1938年5月7日、クレンペラー指揮ロサンゼルス・フィルハーモニック、ロサンゼルス、アメリカノ演奏時間: 約40分

敬愛する作曲家の傑作室内楽曲を管弦楽に編曲

ブラームス (シェーンベルク編)

実に不思議な作品、と言えるかも しれない。ロマン派時代の作曲家ヨ ハネス・ブラームス (1833~97) が 1855~61年にかけて作曲した室内 楽曲、ピアノ四重奏曲第1番。1861 年、ハンブルクで行われたクララ・ シューマンの演奏会でクララがピア ノを担当して初演された。それ以前、 20代前半のブラームスは、ロベル ト・シューマンと出会い、精神の病 がシューマンを襲った悲劇の時期、 その妻であるクララを助けた。その 中でピアノ協奏曲第1番(1857年) など初期の傑作を次々と発表する が、このピアノ四重奏曲第1番もそ のひとつであった。それを後年、12 音技法など革命的手法を生み出した 新ウィーン楽派のひとりアルノル ト・シェーンベルク(1874~1951) が、音楽の構成はそのままに大編成 の管弦楽用に編曲したものなのだ。

シェーンベルクはベルリンのプロイセン芸術アカデミーの作曲科ディレクターとしても活動していたが、1933年にナチスの台頭によりアメリカに亡命。そしてボストンやカリフ

ォルニアの大学で教え始めた。その 時期には、ロサンゼルス・フィルハー モニックの指揮者であったオットー・ クレンペラーも私的にシェーンベル クのもとで作曲を学んでいた。シェ ーンベルクは作曲家を志した時期に ブラームスの影響を受けていたが、 このブラームスの室内楽曲を編曲す るにあたって、この曲が好き、この曲 は演奏機会にあまり恵まれていない、 演奏時にはピアノの音が大きすぎて 他の弦楽器が聞こえない、という編 曲の意図をサンフランシスコの評論 家に対して述べている。シェーンベ ルクは、例えば第1楽章の最初の動機 $\lceil D \nearrow B \setminus Fis \nearrow G(\nu \nearrow \nu) b \setminus J \gamma +$ ↗ソ) I、上行~下行~上行という繰 り返しによる動機をブラームスの革 新性を表現するものと考えていた。

オーケストレーションにはシロフォンなど打楽器を加えてはいるが、全体の構成はブラームスの原曲そのままで、主にピアノによって表現される厚みのある音をオーケストラに振り分けている。第4楽章は有名な「ジプシー風ロンド」である。

楽器編成/フルート 3(ピッコロ持替)、オーボエ 3(イングリッシュ・ホルン持替)、クラリネット 2(バスクラリネット持替)、エスクラリネット、ファゴット 3(コントラファゴット持替)、ホルン 4、トランペット 3、トロンボーン 3、チューバ、ティンパニ、打楽器(大太鼓、シンバル、グロッケンシュピール、小太鼓、タンブリン、トライアングル、シロフォン)、弦五部